

トルコ 今年のサクランボは大玉を期待

[FreshPlaza 2024年3月18日](#)

「弊社の果樹園では26+や28+など大玉のサクランボが多くなることを期待」

トルコの青果物輸出業者であるアラナル社で販売コーディネーターを務めるイギット・ギョキギット氏は、同社の次のシーズンのサクランボは3つの地域から出荷される予定だと話す。(以下「」は同氏の発言)

「トルコのサクランボの出荷シーズンは、例年どおりイズミル県から始まる。今年の出荷は5月下旬に始まると見込まれる。弊社は契約生産者と連携しているが、トルコ国内の3つの異なる地域にある自社の果樹園でもサクランボを栽培している。これらの果樹園は、チャナッカレ、アフイオン、マニサの各県にある。弊社の約700ヘクタールの果樹園では、サクランボ、イチジク、アンズ、スモモ、ブルーベリーを栽培している。サクランボは自社で栽培する主な果実で、200ヘクタール近くの果樹園がある。トルコで栽培されるサクランボの主な品種はZ-900であるが、弊社では主にレジーナ品種を栽培している。」

同社にはまだ成園化していない果樹園が複数あるため、サクランボの生産量は来年も増加する見込みだと同氏は説明する。「弊社にはまだ若いサクランボの果樹があり、毎年収穫量が増えて行く。ここ数年は毎年最大500トン収穫することができたが、今年は600トン以上を見込んでいる。2026年には1千トンの収穫を見込んでおり、2029年までに年間収穫量が1,800トンまで増加する見込みである。また、今年は果実の直径が26ミリメートル以上や28ミリメートル以上となる大玉が以前よりも多くなることを喜んでいる。」

ありがたいことに、天候は数年前よりも良いようである。その結果、ギョキギット氏は非常に有望なサクランボのシーズンを期待している。「自社の果樹園だけでなく、全国の契約生産者も今年は良いシーズンを期待している。2年前の2022年は、天候の影響が最悪の部類で、全国の収穫量が過去数十年で最も少ない年の1つとなった。しかし、2024年は今のところサクランボに最適な天候に恵まれており、生産者は今年の出来に期待している。

アラナル社は主として果実を空輸で出荷しているため、紅海の危機はほとんどに影響しないと見られる。しかし、同氏は、海上輸送する果実は別の輸出先を見つけなければならないかも知れないと予想している。

「アジアの太平洋側の地域では最近、サクランボの需要が高まっている。湾岸地域からも同様の関心が寄せられている。弊社はトルコからアジア向けに生鮮果実を輸出する主要な業者の1つであるが、イチジク、サクランボ、ブルーベリーなどニッチな果実を栽培、梱包、輸出しているため、これらをすべて空輸している。これは、海上貨物の物流問題の影響をそれほど受けないことを意味する。そう言いつつも、アンズとスモモは日持ちがするため、海上輸送で送っている。現在の難しい状況では、今からのシーズンにはこれらの品目をアジアに送らないことになるかも知れない。」

「弊社は北米からアフリカまで40か国以上にサクランボを輸出している。弊社の主な市場は従来どおりヨーロッパ、中でも主にドイツである。今年は、中東、中央ヨーロッパ、英国など、様々な地域にさらに多くの果実を送る予定である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

訳注: 翻訳記事は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません。